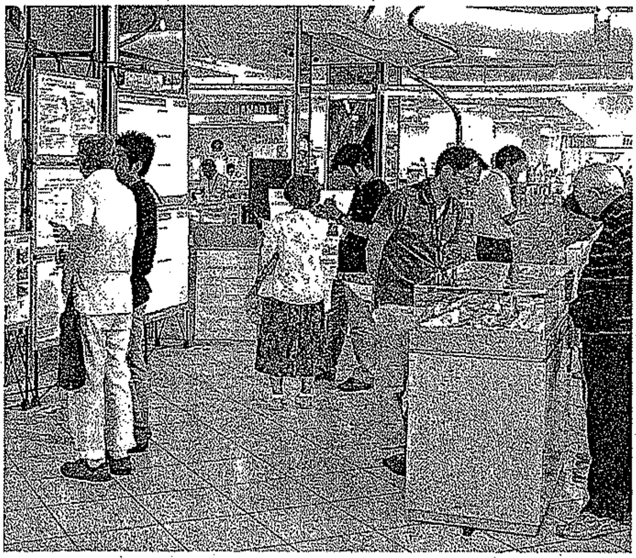
参考資料⑤

静岡新聞　平成25年１月５日掲載

沼津駅鉄道高架化

ＰＩ停滞　結論は新年度？

ＪＲ沼津駅付近の鉄道高架事業をめぐり、県が行っている住民参加型の合意形成作業パブリックインボルブメント（ＰＩ）。本年度中に6段階の議論を終えて事業の推奨案を導き出す予定だったが、２０１２年12月末の時点で2段階目で停滞している。結論が13年度以降に持ち越しになりそうな状況に、市民からは「これ以上待たされるのはうんざり」と嘆く声が聞こえてくる。



まちの課題などについて市民から意見を聞き取ったオープンハウス＝2012年８月24日、沼津市内

県は12年4月以降、市民から意見を募るオープンハウスなどを継続的に開き、１千件を超す意見を集めた。同10月の沼津市長選では栗原裕康市長が事業見直しを訴える新人候補を退け、再選した。

推進派の男性会社員(59)は「駅前の再開発など関連事業が進み、市長選でも（高架推進の方向で）決着が付いたはず」とＰＩの必要性に疑問を投げ掛ける。一方、反対派の男性農業者(68)は「事業の費用対効果などが依然、曖昧だ。県だけでなく沼津市もＰＩに積極的に関わり、説明責任を果たすべき」と訴える。

こうした声に市の担当者は「資料提供などでＰＩに協力している。今後も高架化を前提に、事業主体の県を裏方として支えていく」と述べ、議論には直接加わらない姿勢だ。

県は新年早々にも、事業の推進派、反対派の双方が地域の将来像を話し合う「勉強会」を駅前地区と貨物駅移転先の原地区でそれぞれ開く。ただ、高架事業の原案と代替案を比較検討する3段階目以降に移行するめどは立っていない。

推奨案めど立たず

県の担当者は「時間管理の意識は大切だが、重要な議論であり、拙速に進めるわけにはいかない」と話している。